

牡蠣への理解と愛着を深める漢字ドリル
「広島 牡蠣とり帳」が
アジア太平洋エフィー賞(APAC Effie Awards2019)にてゴールド2つ、
ブロンズ1つを受賞。

広島県観光プロモーションの一環で制作した「広島 牡蠣とり帳(かきとりちょう)」が、平成31年4月25日シンガポールにて開催されたAPAC Effie Awards2019で、ゴールドを2つ、ブロンズを1つ獲得しました。



【受賞概要】

エフィー賞はマーケティング・コミュニケーション活動を Marketing Effectiveness (広告効果) の面から世界基準で評価・表彰する、世界的に権威のある広告賞の1つです。グローバルのエフィー賞に加え、世界5つの地域で行われるリージョナルのエフィー賞、世界およそ40か国で行われている各国のエフィー賞があり、今回受賞したアジア太平洋エフィー賞 (APAC Effie Awards) は5つのリージョナルのエフィー賞の一角をなすものです。

主催・運営はCAAAA(アジア広告業協会連盟)とTenasia社。

今回受賞した内容は以下のとおり

- ・Food部門：ゴールド
- ・Small Budget-Products部門：ゴールド
- ・Media Content Partnership部門：ブロンズ

今回は、牡蠣という食のコンテンツを学習教材にするという注目のさせ方でニュースにし、ビジネスや社会に影響を与える結果に繋がったこと、教育委員会公認の教材という今までにな

いメディアの使い方によって施策を効果的に展開したこと、またそれらを比較的低予算かつアイデアの面白さで成し遂げたことなどが評価されました。

【企画制作】

KOO-KI（代表：江口（えぐち）カン） + I&S BBDO グループ(I&S BBDO/BBDO JWEST)

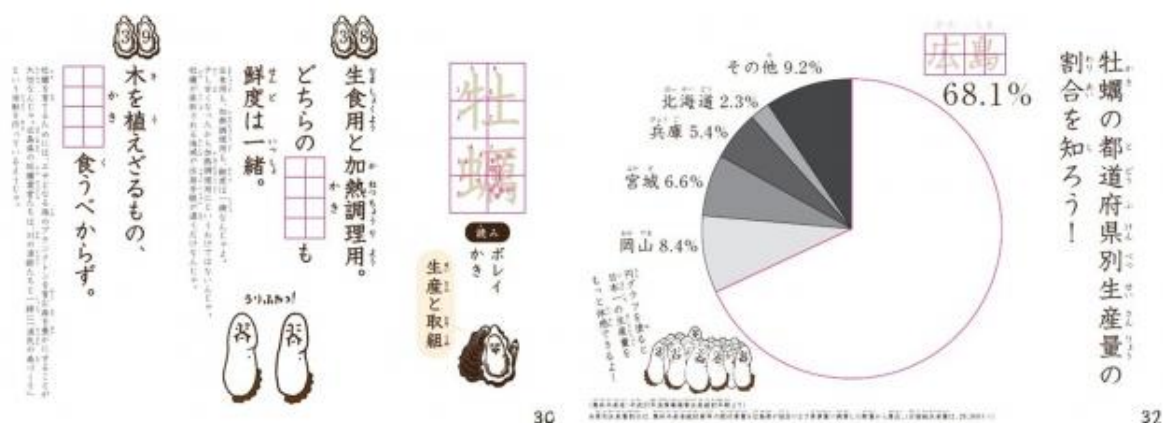
【コンテンツの概要】

受賞した「広島 牡蠣とり帳」は、平成29年10月から広島県の特産品である牡蠣をテーマに展開している広島県観光プロモーション「カンパイ!広島県 牡蠣ングダム」の一環で制作したもので、牡蠣を題材にした様々な例文を通して、「牡蠣」という漢字のみを練習できる漢字ドリルです。

生産量が全国1位であり、県の魚でもある牡蠣ですが、県民を対象に行った調査によれば、約99%が牡蠣という漢字を書けないという事実が明らかになりました。そこで、県民の牡蠣への知識を高めるとともに愛着を深める取組みとして、牡蠣という漢字の書き方を練習しながら、例文を通して牡蠣のことを知ることができる漢字ドリル「広島 牡蠣とり帳」を制作し、生産量全国1位の呉市や2位の江田島市の小学6年生等に配付しました。

本書に収録されている例文は、広島大学大学院生物圏科学研究科の海野徹也（うみのてつや）准教授監修のもと制作し、「牡蠣のほとんどは内臓だよ」、「室町時代には広島牡蠣の養殖が始まっていた」など、牡蠣という漢字の練習を通じて牡蠣への知識を高めることができる内容となっています。これらの例文を通して、計97回、「牡蠣」という漢字を練習することができます。

作品 URL : <https://hiroshima-welcome.jp/kakingdom/kakitori/>



《リリースに掲載の各種画像について》

お手数ですが、下記よりダウンロードして、ご利用ください。

http://pr9.work/0/effie_awards2019